

LIBRARY通信10月

2023年10月2日発行
大田区立志茂田中学校読書学習司書 関二三枝



読書はしないといけないの? 「死ぬほど読書 / 著 丹羽宇一郎 幻冬舎新書 (019に)」より

「大学生の読書時間『0分』が5割に」(2月24日朝刊)という新聞記事に大学生(21歳・男性)が投稿した記事です。

『読書はしないといけないの?』高校生の時まで読書は全くしなかった。それで困ったことはない。読書が生きる上での糧になると感じたことはない。役に立つかもしれないが、読まなくても生きていく上で問題はない。

なぜ問題視されるのか。もし読書をしなくてはいけない確固たる理由があるならば教えて頂きたい。

(朝日新聞2017年3月8日付掲載)

本は上記の記事の紹介から始まります。著者の丹羽宇一郎さんはこの記事をどう感じたのか、また「死ぬほど読書」という題名はどんな意味なのかを知りたいと思い読んでみました。読んでいるうちに何冊も本を読んでいる感覚になり、読みたい本が次々と浮かんで来て、もっと読みたいももっとと・・・というループにはまっていました。

図書館にいると志茂田中の皆さんからは「胸キュン!になる本はどれですか?」「ミステリー系はありますか?」「〇〇さん(作家)の本はどこにありますか?」「〇〇(題名)はありますか?」といったことを聞かれます。朝読書などを通してすでに様々なことを読書から得ていることがわかります。

今月は **読書週間(10/27~11/9)**があります。

2023年のスローガンは『**私のペースでしおりは進む**』です。



(写真:公益社団法人読書推進運動協議会)

「死ぬほど読書」をするチャンスです! 図書館へGO!!

10月の学校図書館

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----------------------|------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 10月2日 開館 | 10月3日 開館 | 10月4日 休館 | 10月5日 開館 | 10月6日 開館 |
| 10月9日 スポーツの日 休館 | 10月10日 開館 | 10月11日 休館 | 10月12日 開館 | 10月13日 開館 |
| 10月16日 開館 | 10月17日 開館 | 10月18日 休館 | 10月19日 開館 | 10月20日 開館 |
| 10月23日 開館 | 10月24日 *コラボ給食 開館 | 10月25日 休館 | 10月26日 開館 | 10月27日 開館 |
| 10月30日 開館 | 10月31日 開館 | | | |

コラボ給食 2 学期

10月24日(火)12:45~

学芸委員が給食のメニューに因んだ絵本を朗読します。今回は写真絵本です。

◆学校図書館利用◆

<開館日> 月・火・木・金 (水曜日は休館)

<開館時間> 13時~17時

<貸出冊数> 1人3冊まで

<貸出期間> 2週間



裏面も見てね!

◆ LIBRARY 通信で紹介した本コーナー



LIBRARY 通信で紹介した本をココに集めました。手に取ってみてください。



旅立ちの日に 著／清水 晴木 中央公論社(913 し)

2022年と2023年の都立高校の入試問題に使われました。

東京湾を横断するフェリーが発着する小さな港町・金谷を舞台に、約三十年に亘って、紡がれる出会いと別れ、そして奇跡と再生の物語。愛する妻、大好きな母を失った血の繋がらない親子。挫折し故郷に戻ったバレリーナと、寄り添う書道講師。映画好きの同級生に恋した女子中学生の一大決心。卒業式間近に親友となった二人の男子高校生。余命宣告を受けた元妻と数十年ぶりに偶然再会した男。彼らを見守るフェリー乗り場の総合案内係・椿屋誠。無機質に見えた彼の心と表情も、人々の出会いと別れに触れ、やがて…。

27,000冊ガーデン 著／大崎梢 双葉社(913 お)

星川駒子は県立高校の図書館に勤める学校司書だ。たまたま居合わせた出入りの書店員・針谷敬斗と共に、生徒が巻き込まれた事件の解決に一役買う。そんな二人のもとには、ディスプレイ荒らしや小口ずらり事件など、図書館や本にまつわる謎が次々と持ち込まれる!?

学校図書館を舞台にすべての本好きに贈る、心あたたまるミステリー。



(参考:Book データベース)

ハンチバック 著／市川沙央 文藝春秋(913 い)

「本を読むたび背骨は曲がり肺を潰し喉に孔を穿ち歩いては頭をぶつけ、私の身体は生きるために壊れてきた。」圧倒的迫力&ユーモアで選考会に衝撃を与えた。第128回文学界新人賞、第169回芥川賞受賞作。